

作成番号:0176

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

号数:2024-176

内容:社会とのつながりが減少する「社会的フレイル」は死亡のリスクを上昇させる。

出典:Social frailty as a predictor of all-cause mortality and functional disability: a systematic review and meta-analysis.

Scientific reports. 2024 Feb 10;14(1):3410. pii: 3410.

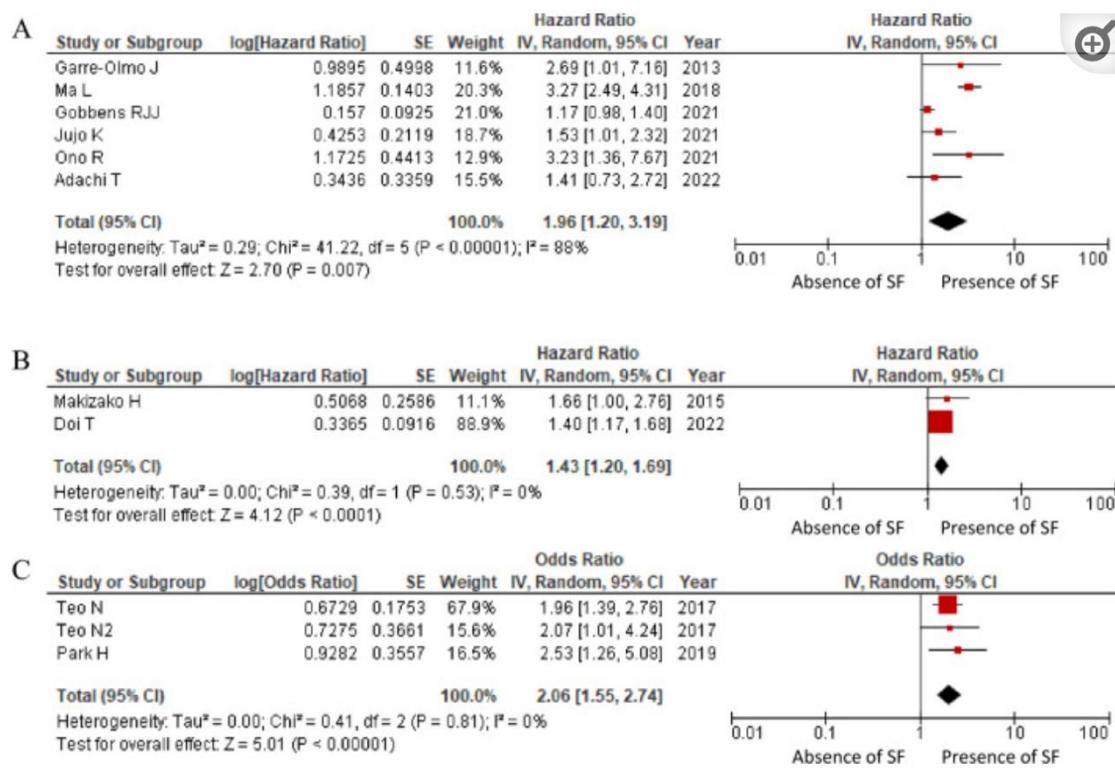
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38341512/>

「社会的フレイル(social frailty)」とは、人と交流する機会など、社会とのつながりが減少し、社会的に虚弱な状態にあることで、うつ状態や認知機能の低下などの「精神・心理的フレイル」、運動能力や筋力などが衰える「身体的フレイル」にも影響を及ぼす。その社会的フレイルと健康状態との関連について体系的な分析を、徳島大学大学院医歯薬学研究部の研究者らが実施し、その結果は「Scientific Reports」2月10日号に掲載された。

文献データベースを用いた検索およびハンドサーチにより、社会的フレイルと総死亡(全死因による死亡)または機能障害との関連が研究された英語の論文を収集し、6件(前向きコホート研究5件、後ろ向きコホート研究1件)が抽出された。これらは2013年～2022年に発表され、3件が日本の研究だった。6件のうち4件は、社会的フレイルは総死亡と有意に関連すると報告していたが、2件では有意な関連は報告されなかった。社会的フレイルと機能障害との関連については、2014年～2022年に発表された研究が8件(前向きコホート研究4件、横断研究4件)抽出され、そのうち7件は、社会的フレイルが日常生活活動(ADL)の低下と有意に関連することを示していた。次に、総死亡に関する研究6件のメタアナリシス(統合解析)を行った結果、社会的フレイルにより総死亡のリスクが1.96倍(ハザード比1.96、95%信頼区間1.20～3.19)有意に上昇。社会的フレイルと機能障害との関連については、1.43(95%信頼区間1.20～1.69)という結果が得られた。これらの研究間の異質性は低かった。

以上から、社会的フレイルは総死亡および機能障害のリスクと有意に関連する。

Figure 2



Forest plot evaluating the effects of the presence or absence of social frailty. (A) hazard ratio of all-cause mortality; (B) hazard ratio of functional disability; and (C) odds ratio of functional disability.